

奥越地区の県立高校の 魅力ある在り方について

平成21年12月22日

奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議

は じ め に

奥越地区においては、今年3月に策定された「県立高等学校再編整備計画 第1次実施計画」に基づき、県内初の本格的な全日制高校の再編整備が実施されることとなりました。

こうした中、今年8月に「奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議」が設置され、保護者や地域産業界からの代表、学識経験者、教育関係者など様々な分野の委員によって、県立高校全体の魅力向上策等について協議してきました。

また、この検討会議には、大野高校、勝山高校、再編により新しく設置される高校ごとに専門部会を設け、それぞれの学校の課題や今後の対応策等について検討を行いました。

協議や検討の過程においては、県教育委員会から、再編整備の考え方や奥越地区の現状等について説明を受けるとともに、地域の大切な財産である県立高校の今後の在り方について、終始熱心な議論が行われ、様々な意見が出されました。こうした経緯を踏まえ、このたび、奥越地区の県立高校の魅力ある在り方について、意見集約が図られましたので、次のとおり報告いたします。

何よりも、保護者をはじめ地域の方々は、子どもたちには将来社会で大いに活躍できるようたくましく成長してほしいと願っており、学校に対しては子ども一人ひとりの可能性を大いに伸ばす教育の実践に期待しています。また、同時に、奥越地区の豊かな自然環境や地域に根ざした伝統、地域の暖かい人間性に包まれて、生まれ育った故郷を大切に思う心を持ち続けてもらいたいと思っています。

県教育委員会におかれては、本報告の趣旨を理解し、今回の再編整備に当たっては、子どもたちにより充実した高校教育を提供することを第一に進め、奥越地区の再編整備を本県のモデルとなるような素晴らしいものにしていただくよう、強くお願いいたします。

平成21年12月22日

奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議

目次

検討結果の報告に当たって 1

検討課題1 特色ある高校づくりについて 2

検討課題2 学校規模について 3

検討課題3 普通科系高校の在り方について 4

検討課題4 総合産業高校の在り方について 6

【参考資料】 9

検討結果の報告に当たって

本検討会議では、奥越地区の高校教育に関する様々な課題や、高校の魅力を高めるためにはどうしたらよいかなどについて検討してきました。

検討結果については、協議や検討の過程において明らかになった課題を次の4点に集約し、それぞれの課題ごとに、検討課題の論点、検討会議や専門部会での主な意見、再編整備に当たっての要望の順で整理して報告します。

【検討課題】

- 1 特色ある高校づくりについて
- 2 学校規模について
- 3 普通科系高校の在り方について
- 4 総合産業高校の在り方について

検討課題1 特色ある高校づくりについて

1 論 点

県立高等学校再編整備計画第1次実施計画（以下「第1次計画」という）においては、総合産業高校の設置のほか、普通科系の高校についても教育内容等の充実を図ることとしております。

現在、奥越地区においては、中学校卒業生数の減少が著しいことに加え、毎年、主に福井市内の高校へ進学する子どもが少なからずいます。

このため、これまで以上に、地域の特性を生かした特色ある学校づくりを進め、奥越地区の県立高校を魅力ある学校にしていくことが必要です。

2 検討会議、専門部会での意見

検討会議や各高校の専門部会においては、次のような意見が出されました。

- ・ 再編整備により、県内どの地区においても同じような高校ばかりになることは避けたい。各々の高校単独では困難ならば、奥越地区として、奥越ならではの特色を取り入れた教育体制を考えるべきである。
- ・ 全国では、学校設定科目と教科の学習とが連動した形で特色づくりを行う学校が増えている。コースや学科にこだわらず、学校全体として、学校の魅力、ビジョンをはっきりさせる取組みを行うとよい。
- ・ それぞれの高校においては、形ではなく、教育の中身で魅力や特色を出す工夫が必要である。

また、県教育委員会から、次のような説明がありました。

- ・ 再編整備計画では、総合産業高校において、地域の産業や観光振興についても学ぶような、特色ある学科を設置することとしている。
- ・ 普通科系の高校については、生徒の進学希望に十分対応できるよう、教育内容を充実していきたい。

3 再編整備に当たっての要望

今回の再編整備を契機に、奥越地区の県立高校が、地元のみならず周辺の市町の子どもたちからも進学したいと思ってもらえるような学校となることを期待しています。

このため、次の事項について要望します。

県立高校の再編整備に当たっては、奥越の歴史や伝統、地場産業などについて理解を深めるとともに、子どもたちの多様な進路志望に的確に応えられるよう、特色ある学校づくりを進めること

検討課題2 学校規模について

1 論点

第1次計画においては、奥越地区の全ての県立高校を1学年当たり5学級規模にすることとされています。

このことは、将来的に、生徒の進学希望や通学の利便性などの面で問題はないのか、また、大野・勝山両市の人口のバランスを考えた上で妥当なのかを考える必要があります。

2 検討会議、専門部会での意見

検討会議や各高校の専門部会においては、次のような意見が出されました。

- ・ 地元の子どもたちには、これからも地元の高校で学んでもらいたい。遠くの学校に通うことは、時間的・経済的にも負担がかかる。
- ・ 学校規模については、大野、勝山両市の人口比についても考慮すべきではないか。
- ・ 再編整備には理解をするが、勝山市内に高校が1校だけになることにより、市外の高校に進学しなければならない中学生が増えることには多少の不満はある。

また、県教育委員会から、次のような説明がありました。

- ・ 再編整備計画では、再編後の各校の1学年当たりの規模について、3校とも5学級としている。これは、高問協答申に基づき、教育効果向上を図る観点から、各学校において適正規模を確保するためである。
- ・ 各学校の定員数については、これまでも中学校卒業生数の推移見込みや、中学生の進路志望状況等を踏まえて決定しており、今後の定員数の決定に当たっても、こうしたことを十分考慮していきたい。

3 再編整備に当たっての要望

少子化に伴い生徒数の減少が進む中、県立高校の再編整備の必要性や、学校の活力の維持・向上を図るために、奥越地区の全ての県立高校で適正な規模を確保したいという県教育委員会の考え方は、概ね理解をいたします。

しかし、学校規模の設定に当たっては、単なる数合わせに終わるのではなく、地区の実情等に十分配慮していただく必要があります。

また、豪雪地帯である奥越地区においては、生徒の通学に関して積雪の影響が非常に大きいことも考慮する必要があります。

このため、次の事項について要望します。

募集定員をはじめ学校規模の設定に当たっては、子どもたちの志望動向や保護者の意向、通学上の負担、今後の生徒数の推移などに十分配慮すること

検討課題3 普通科系高校の在り方について

1 論 点

第1次計画においては、普通科系の高校である大野、勝山両高校について、地区の進学校として教育内容の充実を図るほか、勝山高校については、情報化社会に主体的に対応できる人材の育成を図るため、普通科に高度な情報科学学習を行い理工系・情報系大学への進学を目指す「情報コース」を設置することとされています。

また、大野高校の定時制課程については、来年度から、単位制・2学期制の導入などが実施され、3年間で卒業することが可能になります。

普通科系の高校については、生徒の学力の幅が広いことを踏まえて、どのような教育体制が必要なのか、また、勝山高校にのみ特別なコース設定をすることは、生徒の進路動向や地域的なバランスから考えて妥当なのかを検討する必要があります。

2 検討会議、専門部会での意見

検討会議や各高校の専門部会においては、次のような意見が出されました。

◆ 必要な教育体制について

- ・ 再編整備により、今まで以上に1校当たりの生徒の学力の幅が広がることが予想されるため、一人ひとりの生徒に対応したきめ細かな教育上の工夫が必要である。
- ・ 生徒の進学希望は、大学、短大、専修学校等と多様であり、それぞれの希望に応じた幅広い教育をお願いします。

◆ 勝山高校普通科情報コースについて

- ・ 勝山高校にのみ特別なコース設定をすることについては、地域的なバランスの面から疑問を感じる。
- ・ 情報は、今後ますます注目を浴びてくる分野であると思う。高校時代から情報を学ぶことの優位性を最大限に生かす教育体制を整備することで地域に特色が生まれる。
- ・ 情報コースを設置するとしても、高校における一般的な教育が基盤にあるため、それほど深い専門的学習はできない恐れがある。また、5クラスの中で1クラスを情報コースにすることになると、他の進路選択の幅を狭めることになる恐れがある。
- ・ 「情報」は入試に必要な科目ではないため、大学進学の間では、不利に働くのではないかと。むしろ、理数系のコース設定が望ましいと考える。

また、県教育委員会から、次のような説明がありました。

- ・ 大野、勝山両校とも、奥越の進学校として、更なるレベルアップを図りたい。
- ・ 勝山高校については、専門部会の検討結果を踏まえ、生徒募集に当たって特別なコース設定は行わず、2年次から、生徒の進路志望状況等に応じて、さらにきめ細かな類型分けを検討する。

3 再編整備に当たっての要望

普通科系の高校に進学する子どもたちは、将来大学等へ進学することを目標としており、実際、大野、勝山両高校の卒業生のほとんどが進学しています。

さらに、こうした進学志向の高まりに伴い、市外の高校に進学する生徒も増えています。

また、奥越地区の普通科系高校は、生徒の学力が幅広く、これまでも両校において習熟度別のクラス編成など、個々の生徒に応じた教育が行われています。

高校への進学に当たっては、あくまでも子どもたち自身の希望が大切であることは言うまでもありませんが、やはり、地元の子どもたちは地元で育ってほしいという保護者や地域の方々の声があることも事実です。

このため、次の事項について要望します。

大野、勝山両高校においては、地元の普通科系の高校として、生徒一人ひとりの学力の到達度に応じたクラス編成や、進路志望状況等に応じた類型分けなど、きめ細かな教育体制を整備すること

検討課題4 総合産業高校の在り方について

1 論 点

第1次計画においては、大野東高校と勝山南高校は総合産業高校に再編整備することとされています。

この総合産業高校には、新しい学科として、流通・販売・情報等の商業教育の基礎とともに、地域の産業や観光振興についても学ぶ「総合ビジネス科（仮称）」と、衣食住、福祉サービス分野の基本を総合的に学ぶとともに、介護福祉士、調理師等の資格取得にも対応した「生活福祉科（仮称）」が設置される予定です。

また、現在大野東高校には、工業系学科として機械システム科、電気科、情報・建設科の3科が設置されていますが、総合産業高校においては、工業の基礎的分野である機械科、電気科の2科が設置されるとのことです。

総合産業高校の設置は、今回の再編整備において大きな位置を占めており、奥越地区ならではの特色や魅力を持った、地区の職業教育の拠点としてふさわしい学校に整備する必要があります。

また、学科の設置に当たっては、地区の実情等を十分踏まえたものなのか、子どもたちの多様な進路志望に対応できるものとなっているのかを検討する必要があります。

2 検討会議、専門部会での意見

検討会議や各高校の専門部会においては、次のような意見が出されました。

◆ 高校の魅力づくりについて

- ・ 中学生や保護者に、入って良かったと思ってもらえるような学校にしてほしい。
- ・ 既存の学科にこだわることなく、奥越地域の特性等を考慮し、新しい高校にふさわしい学科を設置してほしい。
- ・ 総合産業高校においては、他学科の教科も横断的に学ぶことができる教育体制をとることに加え、専門家による授業や、職業体験など、実践的な教育に力を入れるべきである。

◆ 学科の在り方について

- ・ 奥越には多くの建設関係業者があり、建設業は奥越の主要産業である。何らかの形で、大野東高校の建設コースを残せないか。
- ・ 奥越の女子生徒の進学先を確保するため、商業科や家庭科系の学科は必要である。
- ・ 商業系の学科については、「情報ビジネス」など、生徒や保護者が魅力を感じるような名称にすべきである。
- ・ 「生活福祉科食文化コース(仮称)」については、調理師資格取得よりも、被服など幅広い分野を取り入れる方向が、生徒の動向や地区の実情にも合っている。

また、県教育委員会から、次のような説明がありました。

- ・ 大野東高校情報・建設科建設コースは、生徒数の減少や卒業生の進路状況を考慮すると、今後もコースとして存続させることは困難であるが、建設業が奥越地区の経済の主要な位置を占めていることや、土木関連の学習機会を確保する観点から、総合産業高校の工業系学科において、一定の土木関連の科目を取り入れるなど、カリキュラム編成において配慮する。
- ・ 家庭学科については、食だけでなく、被服や保育等の様々な内容を取り入れることで、教育効果を高めることができると考えられることから、専門部会での検討結果も踏まえ、調理師養成課程は設置せず、生徒の多様な学習ニーズに対応するため、興味・関心に応じた専門科目を選択できる体制を整備することとしたい。

3 再編整備に当たっての要望

総合産業高校には、地域の産業の将来を担い、地域に根ざして活躍する人材の育成に大いに期待しており、そのためには、変化する社会のニーズに的確に対応した職業教育に併せて、地区の特色や魅力をどれだけ教育内容に生かすことができるのかが成功の鍵となります。

また、学科の設置等に当たっても、できる限り地区の意向を反映することが必要です。

このため、次の事項について要望します。

- 建設業が奥越地区の経済の主要な位置を占めていることを踏まえ、生徒の希望に応じて、土木関連の学習ができる体制をとること
- 「生活福祉科食文化コース(仮称)」については、食・被服・保育など、生徒の興味・関心に応じた学習ができる体制をとること
- 学校の施設、設備等については、子どもたちが安全・安心に学習できる環境づくり、産業社会の進展に伴う教育内容の多様化への対応、地域の学校として親しみのある学校づくりを念頭に進め、教育環境の充実に努めること

【参 考 資 料】

○奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議 検討経過	9
○奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議設置要綱	10
○奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議委員名簿	11
○各専門部会報告書	13

奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議 検討経過

1 検討会議

回数	開催日	協議内容
第1回	平成21年 8月31日	座長および副座長選出 奥越地区の県立高校の現況説明 意見交換
第2回	平成21年11月18日	専門部会検討結果報告等 意見交換
	平成21年12月22日	報告書提出

2 専門部会

部会名	開催日	開催場所
大野高校検討部会	平成21年10月14日	大野高校
勝山高校検討部会	平成21年10月23日	勝山高校
新高校検討部会	平成21年10月 7日 平成21年10月23日 平成21年11月11日	大野東高校

奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議設置要綱

(設 置)

第1条 奥越地区における県立高校全体の振興方策等について具体的検討を行い、より充実した高校教育の実現を図るため、奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議（以下「検討会議」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討会議は、次の事項について検討し、福井県教育委員会に対し助言する。

- (1) 奥越地区の高校教育の振興方策に関する事項
- (2) 学習活動や学校行事、部活動等の各学校共通の課題に関する事項
- (3) 「県立高等学校再編整備計画 第1次実施計画」により新たに設置される県立高校（以下、「新高校」という。）の教育内容の充実策に関する事項
- (4) 前各号に掲げるもののほか、奥越地区の高校教育充実に関して必要と認める事項

(組 織)

第3条 検討会議は、16人以内の委員をもって構成する。

- 2 委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、産業界関係者、福井県教育委員会事務局職員等のうちから福井県教育委員会が委嘱する。

(座長および副座長)

第4条 検討会議に座長および副座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選によってこれを定め、副座長は、座長が指名する。
- 3 座長は、会務を総理し、検討会議を代表する。
- 4 副座長は、座長を補佐し、座長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 検討会議は、座長が招集する。

- 2 座長は、検討会議の議事を整理する。
- 3 座長が必要があると認めるときは、委員以外の者に会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(専門部会)

第6条 検討会議に、各県立高校の個別事項について検討するため、次の専門部会を置く。

- (1) 大野高校検討部会
- (2) 勝山高校検討部会
- (3) 新高校検討部会

- 2 専門部会は、福井県教育委員会事務局職員、県立学校関係者等のうちから座長が指名する者をもって構成する。
- 3 専門部会に部会長を置き、部会の構成員のうちから座長の指名する者をもってこれに充てる。

(庶 務)

第7条 検討会議の庶務は、福井県教育庁高校教育課において処理する。

(そ の 他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の運営に関し必要な事項は、座長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年8月31日から施行する。

奥越地区魅力ある県立高校づくり検討会議委員名簿

1 委員：16名

氏名	役職等	備考
小野田理夫	大野市中学校校長会会長	
木戸口 元	勝山高等学校教諭	
阪井 幸人	大野高等学校教諭	
高田 正規	ベネッセコーポレーション 教育研究開発センター特別顧問	
俎川 隆治	勝山市中学校校長会会長	
塚田 良夫	勝山南高等学校長	
中川 英之	福井大学副学長	座長
中川 眞	勝山高等学校長	
西川 満	大野高等学校長	
橋詰 武宏	仁愛大学人間学部教授	
平沢浩一郎	福井県高等学校PTA連合会理事	
藤井 道明	元 大野市教育長	
松田 通彦	福井県教育庁企画幹（学校教育）	副座長
山田 照幸	福井県織物工業組合理事 （山一織物株式会社 代表取締役社長）	
吉田多輝子	福井県連合婦人会長	
渡辺 徹也	大野東高等学校長	

(50音順)

○ オブザーバー：1名

氏名	役職等	備考
稲山 幹夫	福井県教育委員	

2 専門部会

(1) 大野高校検討部会：8名

氏名	役職等	備考
青木 吉弘	大野高等学校全日制PTA会長	
加藤 敏治	株式会社加藤製缶 代表取締役社長	
兼井 則和	大野高等学校教務主任	
竹沢 義忠	大野高等学校定時制教頭	
中出 良一	陽明中学校長	
西川 満	大野高等学校長	部会長
八田 吉弘	開成中学校PTA会長	
三津谷正典	大野高等学校教頭	

(2) 勝山高校検討部会：7名

氏名	役職等	備考
荒井 由泰	ケイテー(株) 代表取締役社長	(勝山高等学校元同窓会長)
清川 勝浩	勝山高等学校教務主任	
島田さよ子	勝山北部中学校長	
中川 眞	勝山高等学校長	部会長
平沢浩一郎	勝山高校PTA会長	
村中 正明	勝山高等学校教頭	
安田 剛志	勝山南部中学校PTA会長	

(3) 新高校検討部会：12名

氏名	役職等	備考
岡田 高大	大野東高等学校同窓会長	(大野市長)
笠羽 忠恭	勝山中部中学校長	
金子 正義	大野東高校PTA会長	
北川 経治	北川工務店専務	
坂田 潤二	大野東高等学校教頭	
立平幸太郎	大野東高等学校教務主任	
塚田 良夫	勝山南高等学校長	
西川 譲	勝山南高等学校教頭	
浜田 勝治	勝山南高等学校教務主任	
福田 耕治	勝山南高等学校同窓会副会長	
山岸登志高	勝山中部中学校PTA会長	
渡辺 徹也	大野東高等学校長	部会長

(50音順)

各専門部会報告書

◆ 大野高校検討部会報告

1 日 時

平成21年10月14日(水) 14:00～16:00

2 場 所

大野高校 応接室

3 出席者

中出良一(陽明中学校長)、加藤敏治((株)加藤製缶 代表取締役社長)、青木吉弘(大野高校全日制PTA会長)、八田吉弘(開成中学校PTA会長)
大野高校: 西川校長、竹沢定時制教頭、兼井教務主任
県高校教育課: 古谷参事、吉田指導主事、谷主任

4 内 容

(1) 大野高校の現状と課題について

- ・OBとしては、大野の子は大野高校で学んでほしい。部活動をやりたいからと福井でアパートを借りている子がいるが、保護者の経済的負担が大きい。
- ・成績上の分析では、勝山高校の方が少し上と中学生は感じているようだが、勉強したいと勝山高校を目指す生徒は今のところいない。
- ・難関大学を目指す特進クラスや、就職などを考えるコースを作れないか。
- ・特進クラスの設置については、特進クラスに入って意気揚々としている生徒と、やっと大野高校に入れた生徒との学力差が問題だが、特進を3クラス作ることは冒険かもしれない。
- ・大野高校には様々な学力層が存在するのだから、難しいことを学びたい子と基礎基本を身に付けたい子のどちらにも良い教育体制が必要ではないか。

(2) 奥越地区の再編整備について

- ・大野高校と勝山高校のクラス数がどちらも5クラスと同じなのは大野市民としては疑問に感じる。
- ・生徒数減に伴い、平成23年度の5クラスだけでなく、平成22年度でさえ5クラスになりかねない状況である。

(3) 定時制課程の見直しについて

- ・大高定時制に魅力を感じる。特別支援教室にいた子が何人もお世話になっているが、定時制進学後、アルバイト先でにこやかにしている姿を見るとうれしく思う。
- ・ここ数年、登録している事業主8社で雇用されている生徒はいない。アルバイト(レジウチ等)は午後からの仕事なので、二部にする必要がなくなった。
- ・二学期制にすることによって、半期での単位や、後期から編入生を受け入れることが可能になる。

(4) その他の意見

- ・改革には賛成だが、先生の数を減らさないようお願いしたい。
- ・福井県内各高校の定員数をできるだけ均等にしてほしい。生徒数や教員数で活力差が生まれる。例えばPTA活動にしても、生徒数が多い高校は財政も人材も潤っている。
- ・スポーツ推薦の見直しについて考えてほしい。例えばソフトボールは単独でチームが作れていない状況である。推薦でとるからには、チームが構成できる見直しを持ってとるべき。

◆勝山高校検討部会報告

1 日 時

平成21年10月23日（金） 10:00～12:00

2 場 所

勝山高校 応接室

3 出席者

島田さよ子（勝山北部中学校長）、荒井由泰（ケイテー(株)社長・元同窓会長）、
平沢浩一郎（勝山高校PTA会長）、安田剛志（勝山南部中学校PTA会長）
勝山高校：中川校長、村中教頭、清川教務主任
県高校教育課：古谷参事、油谷主任、平松主任

4 内 容

（1）現状説明

- ① 平成19、20年度の進学実績とその取組み、部活動実績について説明を行った。
- ② 「情報コース」について、これまでの議論のまとめや勝山高校での共通理解の事柄を説明した。
- ③ 「情報コース」のメリット・デメリットや県教委からの回答、将来の見通しを説明した。

（2）協 議

- ・ 最初、「情報コース」はどういう生徒の受け皿になるのか（進学する生徒か、就職する生徒か）ということについて話し合いがなされた。
- ・ その中で、総合産業高校の奥越地区の職業系学校としての果たす役割を確認し、就職する生徒の受け皿については、総合産業高校であるという認識で一致した。
- ・ さらに、勝山高校の教員数の減少や福井市内への生徒の流出を考慮して、勝山高校が進学と就職の両方に対応することができない現状や地元の進学を支える普通科高校を目指していることを訴え、理解が得られた。
- ・ 次に、メリットとデメリットをよく理解した上で、デメリットを減らす方向へと議論が進んだ。その中で、「情報コース」は決定事項ではなく、修正可能であるということが確認された。
- ・ その中で、進学を目指すのであれば、「情報コース」ではなくて「理数コース（仮称）」の方がよいという意見が出され、それについての賛成意見が多数出された。
- ・ 最後に、「『情報コース』を『理数コース（仮称）』に変更して、それに相応しい位置付けやカリキュラムを作成することとし、学習活動に情報の内容も取り入れることとする。ただし、1年次は特別なコース設定は行わず、2年次からのコース分けとする。」という一致した結論を得た。

◆新高校検討部会報告

1 日 時

平成21年10月 7日 (水)	15:45～17:40
10月23日 (金)	15:00～18:00
11月11日 (水)	18:00～19:30

2 場 所

大野東高校 応接室

3 出席者

笠羽忠恭（勝山中部中学校長）、北川経治（北川工務店専務）、岡田高大（大野東高校同窓会長）、福田耕治（勝山南高校同窓会副会長）、金子正義（大野東高校PTA会長）、山岸登志高（勝山中部中学校PTA会長）
大野東高校：渡辺校長、坂田教頭、立平教務主任
勝山南高校：塚田校長、西川教頭、浜田教務主任
県高校教育課：小和田課長、古谷参事、折井指導主事、谷主任

4 内 容

(1) 学科編成について

- ①5クラスと設定されているが、はじめからクラス数を限定しないで奥越全体で何の学科が必要なのかを考えてから設定できないか。さらに中学生や保護者が行きたい学校、入って良かったと思える学校にしたい。
- ②既存の学科にこだわることなく県のモデルとなる新産業高校にふさわしいもの、また奥越地域の特性等を考慮し、たとえば農業（バイオマス）関係のコースを考えても良いのではないか。
- ③奥越には多くの建設関係業者がおり、建設の仕事も多い。この地域性を考えるのなら建設科をなくすのはおかしいのではないか。基幹産業を支える若者の育成を望みたい。何らかの形で建設を残せないか。クラス数の問題があるのなら例えば機械科に建設コースを残せないか。
- ④工業という大枠で募集し、入学後、電気、機械、土木等のコースに分けてはどうかという意見もあった。全国に先例のある総合学科の考え方は、そういう考え方だが、うまくいっていないのが現状であり、専門性を軸にすべきだという意見が多かった。
- ⑤情報学科の中に商業系のものと工業系のものをコースとして設定出来ないのかという意見もあったが、学科の特性上、無理という結論になった。ただし、情報というネーミングが中学生・保護者を惹きつけている。生徒が希望しない学科ではどうしようもない。情報ビジネス等、ネーミングを考えた方が良いという意見が多かった。
- ⑥奥越の生徒数が減少を続けるのは事実であり、平成23年度には15クラス分と想定される。これ以上増やすと、いずれかの学校の定員が埋まらない事態が生じる。
- ⑦福井への生徒の流出に関しては、無償化という政治の流れで変化するのではないか。

- ⑧建設を残し、家庭と福祉を一クラスにという意見もあったが、建設科を仮に残し、商業科等を残さず、工業系統ばかり設定すると、奥越の女生徒の行き場がなくなるという意見が多かった。

(2) カリキュラムについて

- ①食文化コースの、調理師を目指す学科から被服を取り入れる方向への変化は、勝山南高校の生徒の動向に一致している。勝山の繊維産業、被服を取り入れることで定員が満たせるようになった経緯から考えれば妥当である。

(3) 総合選択制について

- ①総合産業高校のメリットは、例えば電気科においても福祉の学習が出来ることである。
- ②総合選択の中に「建設」の「測量」という科目を設定して全科から選択できるようにすることで、建設を学びたい生徒、学ばせたい保護者の要望に応える。

◇まとめ

- ・ 学科編成については原案どおりとする。
- ・ 「建設」については、総合選択制の中で残し、建設関係の科目を履修可能とする。
- ・ 食文化コースについては、調理師養成課程は設置せず、被服や保育なども含め、生徒の興味・関心に応じた科目を履修できるコースとする。
- ・ 学校の施設、設備等については、子どもたちが安全・安心に学習できる環境づくり、産業社会の進展に伴う教育内容の多様化への対応、地域の学校として親しみのある学校づくりを念頭に進め、教育環境の充実に努めてほしい。